



2023~2024年度
国際ロータリーテーマ



UEDA EAST

上田東ロータリークラブ

第2600地区 東信第2グループ 創立1978.6.14

世界に希望を生み出そう

WEEKLY REPORT

AUGUST.23.2023 第2074回

会長/上原 達 幹事/松山賢太郎 会報委員長/玉井権太郎

例会：毎週水曜日 午後12:30 ~ 1:30

会場：上田東急REIホテル

事務局：上田市天神4-24-1 上田東急REIホテル 3F
TEL 0268-21-3500 FAX 0268-21-3501

URL: <http://www6.ueda.ne.jp/~uedaeast-rc/>
E-mail: uedaeast-rc@po6.ueda.ne.jp

「自由とは何か」



一般社団法人 上田青年会議所

理事長 野村 康太様

私は今、手を上げようと思えば、
手を挙げられる。
足を使い、歩こうと思えば歩ける。
言葉も出せる。

このように、私は今自分の意志で行動することができます。でも一つだけ、自由に動かせない場所があると気づきました。それは心です。心は、私が緊張するな緊張するなと思えば思うほど、緊張してしまいます。もし、今日の卓話に向け自信を持って臨み、卓話の内容にも責任があればこんな緊張はないはずです。つまり、心だけは自分の理想や期待とは一致しないんだなと思いました。つまり心は、自由でない「不自由」なんです。

本日、高校野球の決勝戦が甲子園球場で行われますが、長野地方大会や全国の地方大会を含む甲子園大会で今日の2校以外、数多くの参加高の選手たちが、ゲームセットの時に涙があふれている。あの涙は努力の結果や感謝の現れの涙だとは思いますが。心で思っている敗北の悔しさとは別に、感謝の涙だと私は思っています。

それに、自由とは、お金では買えないと思っています。先ほど、お話したように例えばお金を払っても今のこの緊張は取れないし、もちろんお金を払って心の幸せは買えないのです。でもどうでしょう。逆を考えてみた時に、反対に自由をお金のために売り払うことはできるのです。自分の自由な時間をなくしてまで、商売を営んだり、会社で働いたりする。その対価として私たちはお金を稼いでいます。つまり自由を売ったという考え方もできるのではと思いました。

もう一つ、自分の自由を犠牲にして誰かの幸せのために行動をしている人もいます。それが、世の中の母親なのです。母親は、子育て期間中は自分の自由な時間なんて一日24時間のうち何分あるのでしょうか。でもその子のために必死で行動して、自分の自由を削る。これだけ不自由な生活をしてても子供の成長とともに多くの「幸せ」という対価をもらっているのです。多くの親は、その子の幸せは自分の幸せと同じなのかもしれません。

こうして話していると、少しだけ理解できた気がします。「自由」とは、「責任」だと。たいていの人間は自由を恐れる。今日の卓話においてもお題を決められていた方がいのように、そして感じたように、ほとんどの人は実は自由なんて求めていないのです。みな、責任を負うことを恐れているからです。

では、逆に責任がもし持てるのであれば。

私たち、青年会議所に目を向けてみます。もし、私たちに責任を負う覚悟があれば、自由なJC活動ができるのです。本年度、49名のメンバーで活動を行っております。私自身はこの約8か月を理事長として活動させていただいて、本当に周りから助けられてばかりで感謝の気持ちでいっぱいです。歴代理事長のなかでも私は一番メンバーに恵まれているなと心から思っています。そんな私の大好きなメンバー48人はそれぞれの立場で、それぞれの思いで活動をしています。一人一人が活動に責任を持っています。だから、この地域の課題にしっかり向き合うことができ課題を解決するべく様々な活動を行っています。その活動は、もちろん委員会毎に「自由」に決めているのです。この青年会議所は、責任があるから自由もあるのです。

私の高校時代の野球部の監督である丸子町出身の中村良隆監督が、日々私たちに言い聞かせていた言葉ですがご紹介します。

まず一つ目が「全員野球」。この理念は今でも佐久長聖野球部で大切に守られています。レギュラー補欠関係ない。相手がいるから試合ができる。親がいるから大好きな野球に打ち込んでいる。つまりすべての人々がいるから今この練習ができています。今日の試合ができています。このような考えです。この考えは、もしかしたらJC活動やもっと言えばこの地域の活動に近い考え方なのではないでしょうか。行政だけではこの地域はよくならない。民間企業だけでも自己の利益に走ってしまう。市民だけでもなかなか他人事になって参画できていない。これからもっと必要なのは、行政、民間企業、市民、そして青年会議所やロータリークラブなどの団体が、みんな同じゴールに向かって進んでいくことではないでしょうか。

